

平安時代の川跡が見つかりました！



垂水南遺跡で見つかった平安時代の川跡

垂水南遺跡で平安時代の川跡が見つかりました。流路内には、木杭が打ち込まれ、そこに横木を固定して、護岸が施されていました。また、流路の外側には、木枝が敷き詰められている部分があり、堤防の基底部の痕跡であろうと考えられます。

流路内からは平安時代を中心とする遺物が数多く出土しました。これらの遺物には、土師器や須恵器、黒色土器などにまじり、墨で文字や記号が書かれた墨書土器や硯に転用された土器がありました。また、皇朝十二銭と呼ばれる銭貨や、雁又式の鉄鏃、銅製の飾り金具、木製の人形や漆塗りの曲物の底板

などが出土し、日常の生活で使われていたものとはやや性質が異なる資料が多く出土しました。



墨書土器「川家」

文化財保護の取り組み

埋蔵文化財の調査

吹田市内には現在約150か所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）があります。遺跡の中で開発等が行われると、遺跡が壊され失われる可能性があります。そこで、遺跡に影響を与えられと判断される場合は発掘調査・試掘調査、遺跡に影響を与えないと予測される場合は掘削工事工程の中で工事立会を行っています。

平成29年度は、25件の発掘調査、3件の試掘調査、86件の工事立会を実施しました。

文化財の保存・管理・公開・活用

一文化財調査一

市内に残る文化財の保護を目的として、文化財の所在状況や実態を把握するための学術的な調査を行っています。また、開発等に伴い、その歴史性や学術的評価が行われなまま滅失する事態も多いことから、保護の方策や方針を得る必要がある場合に、緊急調査を実施しています。平成29年度は、阪急電車千里線神崎川橋脚、旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）美術資料の調査を行いました。



阪急電車千里線神崎川橋脚

一文化財保存事業補助金の交付一

平成29年度は市指定有形民俗文化財1件、市指定無形民俗文化財1件、市地域無形民俗文化財4件の保存事業に補助金を交付しました。

一文化財の管理・公開一

岸部北5丁目の国史跡七尾瓦窯跡、岸部北4丁目の国史跡吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田34号須恵器窯跡および垂水町1丁目の雉子巖碑について、管理を行うとともに一般公開しています。

一文化財の普及・啓発一

文化財の啓発資料の作成・頒布、市内の文化財所在地での文化財説明板の設置等を行っています。平成29年度は、佐井寺伊射奈岐神社の社号標石に説明板を設置した他、小路道標の説明板の修繕を行いました。

旧西尾家住宅・旧中西家住宅の保存・活用

一旧西尾家住宅一

旧西尾家住宅は建物等が国の重要文化財、庭園が国の登録記念物となっています。数寄屋風を意識した主屋、茶道藪内家の指導により建築された茶室、建築家武田五一が和洋折衷の意匠を試みた離れなど、多彩な建物からなります。平成17年（2005年）10月に旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）として開館し、一般公開を行うとともに、様々なイベントを行ってきました。平成30年度は4月22日に積翠庵にて「定例茶会」を開催したほか、6月17日に主屋計量部屋にて「西尾家を学ぼう」を開催しました。

一旧中西家住宅一

旧中西家住宅は建物等が市指定有形文化財および国の登録有形文化財、庭園が国の登録記念物となっています。現在の主屋は文政9年（1826年）に建てられたもので、立派な屋敷構えが残っています。平成20年（2008年）2月より旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）として一般公開を行ってきました。

（河合智子）

大阪北部地震、台風21号による文化財の被害

平成30年(2018年)6月18日の大阪北部地震と9月4日の台風21号は本市に大きな被害をもたらし、市内の文化財も大きな被害を受けました。

旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)では、地震に際しては一部屋根瓦の落下、壁の破損、^{とうろう}燈籠の転倒等の被害を受け、台風に際してはより大きく被害を受け、主屋・離れ棟の屋根瓦の落下、壁の破損、窓ガラスの破損、表門横の塀が傾く等の被害がありました。

旧中西家住宅(吹田吉志部文人墨客迎賓館)では、地震に際しては震源地により近いことから主屋・長屋門等の広い範囲での屋根瓦の落下、壁の破損、燈籠の転倒等の被害を受け、台風に際しては、さらに屋根瓦や樋の落下等、被害が広がりました。

旧西尾家住宅及び旧中西家住宅では、地震で被害を受けた後に復旧の準備に取りかかっていた中で、さらに台風によって被害が広がりました。

吉志部瓦窯跡がある^{し きんざん こうえん}紫金山公園では台風によって多くの木々が倒れました。そのうち、1か所の瓦窯付近で倒木の根が地面を大きくえぐり、その地点で瓦が見つかります。今後、瓦窯に被害がないか確認するための調査を行う予定です。

現在、旧西尾家住宅と旧中西家住宅は復旧のため、臨時休館しております。また、吉志部瓦窯跡も窯跡部分は立ち入りができない状態となっています。ご不便をおかけしますが、公開の目途がつかしましたならば、お知らせさせていただきます。(増田真木)



旧西尾家住宅の被害状況



旧中西家住宅の被害状況



吉志部瓦窯跡の被害状況

垂水南遺跡の発掘調査

垂水南遺跡は、垂水町2丁目・3丁目、江坂町1丁目一帯に広がる弥生時代から中世にかけての遺跡です。垂水南遺跡では、これまで主に古墳時代の集落に関する資料が数多く確認されていますが、平安時代の資料についても貴重なものが見つかっています。昭和53年(1978年)に実施した第5次発掘調査では、「垂庄」と書かれた平安時代前期の墨書土器が出土しており、これは、弘仁3年(812年)に成立した東寺領垂水荘に関連する資料であろうと考えられています。

今回の調査地点(第62次調査)は、この「垂庄」墨書土器が出土した地点の南西側隣接地に当たります。発掘調査は、平成30年(2018年)3月～4月にかけて実施し、巻頭で紹介しましたように、平安時代の川跡を検出しました。

川跡は、その西岸部を確認した形となり、全幅は明らかではありませんが、検出部で最大7mを測りました。流路には護岸が施され、流路内の傾斜面(表法面)に沿う形で概ね3段ほどにわけて木杭が打ち込まれ、そこに横木が組み込まれていました。また、流路の外側には、木枝が敷き詰められた部分が4mほどの幅で認められました。これは、堤防基底部の構築材であると考えられ、本来は、流路に沿って堤防の高まりがあったものと考えられます。

流路内からは平安時代前期を中心とする遺物が多く出土し、一般的な集落跡での出土遺物からすると、やや異質といえる資料も含まれていました。それらをあげると、墨書土器、転用硯、皇朝十二銭のうち3種類(和同開珎1点、神功開寶2点、隆平永寶1点)、雁又式鉄鏃、銅製飾り金具、木製人形、漆塗りの曲物底板、さらに、瓦や緑釉陶器などが出土しました。



川跡の検出状況(調査区の北側部分)



出土銭貨

(上左：和同開珎、上右：隆平永寶、下：神功開寶)



墨書土器「魚」

墨書土器には「川家」や「魚」などと書かれたものがあり、「川家」と書かれたものについては3点出土しました。

人形は、木板を人の形にかたどったもので、祓^{はら}いなどの儀礼で用いられたことから、ここで祭祀^{さいし}が行われていたことを示す資料となります。また、墨書土器や銭貨などについても祭祀^{さいし}で用いられることが多く、今回出土した遺物のある部分は、祭祀^{さいし}儀礼^{ぎれい}に関連するものではないかと考えられます。

なお、「垂庄」墨書土器が出土した第5次調査でも護岸のある川跡が見つかっています。そして、流路内からは「垂庄」だけでなく、「中庄」、「田中」、「蔵」などと書かれた墨書土器や、緑釉陶器、曲物の底板、櫛、斎串といった遺物が見つかっています。

また、当調査地の東側隣接地では、昭和56年(1981年)に大阪府教育委員会が発掘調査^{じんめんぼく}を実施しており、ここでも流路内から人面墨書^{じんめんぼく}を含む墨書土器等が出土しています。

おそらくは、当調査地を含むこの3地点で確認された川跡は同一のものであり、出土資料の多くについても関連性のあるものと考えられます。また、祭器具である斎串や人面墨書土器が出土していることから、この場所で祭祀儀礼が行われていたことはほぼ間違いないものと考えられます。

なお、当調査地の北側隣接地で平成3年(1991年)に実施した第41次調査においても平安時代の護岸を有する川跡が見つかっています。この川跡については、今回の調査で見つかった川跡と直接的に繋がるものかどうかは不明ですが、ここからも、皇朝十二銭の1つである隆平永寶が1点出土しています。

以上のような点から、平安時代前期において当調査地付近には川が流れ、川には堤防が築かれるなどの護岸整備がなされていました。そして、この護岸された川辺においては祭祀儀礼が行われていたものと考えられます。その祭祀が一度だけのものか、何度もとり行われたものなのかはわかりませんが、人形や斎串の出土から、その祭祀は祓^{はら}いの内容を含むものであったと考えられます。なぜ、

この場所でこうした祭祀儀礼が行われたのかは今後の検討課題ですが、その背景には、平安時代初期に成立した東寺領垂水荘との関係があったのかもしれません。

(賀納章雄)



川跡の検出状況(調査区の南側部分)



人形



鉄鎌と銅製飾り金具

*祓^{はら}いは、穢^{けが}れや災厄^{さいやく}を除去して清める儀礼。

蔵人遺跡の発掘調査

蔵人遺跡^{くらうど いせき}は、江坂町2丁目・3丁目・豊津町に広がる、弥生時代から中世にかけての遺跡です。平成30年(2018年)7月～8月に、13か所の調査区を設定する形で発掘調査を行いました。その結果、地表下1.5mから2.5mまでの間に3面の遺構面を検出しました。



ピット(柱穴)の検出状況

もっとも上位の第1面では、東西と南北方向の溝を検出しました。溝内から備前焼^{びぜんやき}播鉢、土師器皿・羽釜^{はがま}、須恵器^{すえき}などの室町時代(14～15世紀代)の遺物が出土しました。



井戸検出状況

次の第2面では、主に南北方向の溝や落ち込み、ピット(小穴)と、溝の肩で杭2本を検出しました。遺構内から瓦器^{がきわん}碗、土師器皿などの鎌倉時代(13世紀代)の遺物が出土しました。

第3面では、柱穴3基、ピット21基、井戸1基、土坑^{どこう}3基、落ち込み1か所、杭5本を検出しました。2基のピットには、底に自然石が3個据えられていました。また井戸は径135cm以上、深さ41cm以上で、井戸枠の残片と思われる板が残っていました。遺構内からは瓦器碗、瓦質土器盤、須恵器、土師器皿・羽釜・鍋など鎌倉時代(13世紀代)の遺物が出土しました。



土師器皿出土状況

出土遺物はほとんどが中世のもので、土師器皿、須恵器甕^{こねばち}・捏鉢、瓦器碗・皿、瓦質土器羽釜・盤・火鉢、備前焼播鉢、常滑焼甕^{とこなめやきかめ}、青磁^{せいじ}、白磁碗^{はくじ}、軒平瓦^{のきひらがわら}・平瓦^と・丸瓦^{いし}、砥石、木杭、鉄釘などが出土しました。

今回の発掘調査では、井戸、土坑、ピット(柱穴を含む)、溝等の遺構と中世の遺物を確認することができました。柱穴や井戸を検出したことは、当地に中世の建物跡が存在していた可能性を示すものです。蔵人遺跡では、中世を中心とする集落跡(建物跡、井戸跡など)が確認されており、今回の発掘調査で確認することができた資料も、その集落に関連するものと考えられます。(堀口健二)

吉志部瓦窯跡の発掘調査

吉志部瓦窯跡は、平安時代初めに平安宮に瓦を供給するために営まれた瓦窯です。岸部北4丁目の紫金山公園を中心とする丘陵南斜面一帯に広がり、国史跡に指定されています。これまでの発掘調査やボーリング調査で15基の窯跡が確認されていましたが、今回の発掘調査は、これまでボーリング調査しか行われなかった史跡東側で、窯跡の現状確認を目的に行いました。

発掘調査は平成30年(2018年)1月、丘陵の斜面部に3か所の調査区を設けて実施しました。このうち2か所の調査区からは、窯体と窯に関わるとみられる遺構を検出しました。



溝と考えられる落ち込み跡と瓦溜まり

1か所の調査区(T1)からは、山側から麓に向かって「L」字形に曲がって延びる溝と考えられる落ち込み跡を検出しました。落ち込みは幅2.3m以上、深さ60cmで、埋土は熱を受けて固くオレンジ色に変色していました。この落ち込みは、窯を土砂や雨水の流入から防ぐ目的で掘られた排水溝の可能性があります。用途に関してはなお検討の余地があります。埋土中からは多量の瓦が出土しました。

T1の下方に設定した調査区(T3)からは、窯体(平窯)と窯に関わると考えられる土手状遺構を検出しました。窯体の規模は幅

2.1m、奥行き1.6m以上、深さ45cm以上で、窯の側壁と、燃焼室と焼成室とを隔てる隔壁を検出しました。側壁と隔壁は平瓦の凸面を上向きにして、スサの入った粘土とを交互に積み重ねていました。窯体内からは多量の瓦が出土しました。



土手状の遺構

また土手状遺構はオレンジ色に変色していました。その盛土内からは瓦が多量に出土し、スサの混じった粘土が付着した平瓦もありました。



窯体検出状況

出土遺物の大半は吉志部瓦窯で生産された瓦で、蓮華文の軒丸瓦、平瓦、丸瓦、塼の他、中世の土器も若干出土しました。

今回検出した窯体の下方には、作業場となる前庭部や灰原の存在が想定され、今後の調査に期待されます。(堀口健二)

平成30年度特別企画「むかしのくらしと学校」

「むかしのくらしと学校」展を12月11日から開催しています。小学3年生社会科単元「くらしのうつりかわり」の学習に準拠した特別企画展です。また子供向けの関連イベントも実施しますので、ご家族でお楽しみいただければと思います。
(藤原博史)

関連イベント(◆親子・子供体験講座等◆)

●「ひいおじいさん・ひいおばあさんが子どものころのくらしー今とはどうちがったのー」

日時／平成31年1月26日(土)
午前1時30分～2時30分
講師／市立博物館 副館長 藤井裕之
定員／先着120名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／不要

●「手づくり おひなさま」

日時／平成31年2月10日(日)
午前の部／10時～12時
午後の部／1時30分～3時30分
講師／エコおもちゃ作り市民塾の皆さん
内容／和紙・木材等を使って作ります。
定員／午前、午後の部とも各20名
対象／小学生以上
申込／1月29日(火) 必着

●「大昔のアクセサリー～^{まがたま}勾玉作り～」

日時／平成31年2月16日(土)
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／博物館学芸員・博物館ボランティア
内容／ろう石を削ったり、磨いたりして、大昔のアクセサリーまが玉を作ります。
定員／午前、午後の部とも各40名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／2月5日(火) 必着

●「ミニチュア^{どうきょう}銅鏡づくり」

日時／平成31年2月23日(土)
午前の部／10時～11時30分
午後の部／1時30分～3時
講師／博物館学芸員
内容／五反島遺跡出土の銅鏡の3分の1ミニチュアをつくります。
定員／午前、午後の部とも各10名
対象／小学3年生～中学生
(小学生の場合は保護者同伴)
申込／2月12日(火) 必着

●「昔のあかりと火おこし体験」

日時／平成31年3月2日(土)
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／博物館ボランティア
内容／ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やまいぎり等の火おこしを体験します。
場所／講座室(火おこしは屋外)
定員／午前、午後の部とも各15組
対象／小学生・中学生・保護者
申込／2月19日(火) 必着

●「3世代をつなぐすてきな歌」

日時／平成31年3月9日(土)
午後2時～3時30分
出演／おんぶひろば コーラスビータ
内容／昔から伝わる歌と現代の子供達と大人の歌
定員／120名(先着順)
対象／3歳～大人

●「手作り おもちゃ教室」

日時／平成31年3月10日(日)
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／心ふれあいS A 吹田おもちゃ部会
内容／昔の遊び道具と牛乳パックや身の回りにある材料を使っておもちゃ作りをします。
定員／午前、午後の部とも各30名
対象／5歳～中学生
申込／2月26日(火) 必着

■申込方法

はがき、またはFAXに、講座名、希望の時間帯、参加者全員(付き添い含む)の氏名、郵便番号、住所、学年、電話番号を書いて博物館まで。申込多数の場合は、抽選となります。

■会場

いずれのイベントも吹田市立博物館 2階 講座室